

# ケアマネジャーのアセスメントで デイサービスを自立支援の味方にしよう

**介**護保険で急増・多様化したデイサービス。措置時代から在宅支援の現場に携わってきたケアマネジャーの奥田達人さんは、「選ぶ」メリットが発揮される鍵となるのは、ケアマネジャーのアセスメントにあると言います。

執筆 ▶ **奥田龍人** ● 一般社団法人日本ケアマネジメント学会 理事  
一般社団法人北海道ケアマネジメントサポートリンク 代表理事



## 民間参入で選ぶ時代に

介護保険制度によりサービス内容が最も変わったのはデイサービスであろう。介護保険制度施行以前は社会福祉法人や行政直営のデイサービスしか認められていなかったこともあり、押しなべてワンパターンのデイサービスがほとんどであった。おおむね朝の8時から9時半くらいにお迎えの車に乗り、デイサービスに着くとまずは健康チェック、水分補給。集団体操（集団を対象とした機能訓練という位置づけ）をした後は、塗り絵や作品づくりなどの手作業をして合間に順番で入浴。昼食前には口腔体操、食後は昼寝する人もいれば、麻雀や読書、カラオケなどめいめいが好むことをして、その後集団レクリエーション（今ではあまり評判のよくない風船バレーもよくやったなあ）。レク後はおやつやお茶などをいただき、15時から16時半くらいに送りの車に乗って帰宅、という具合である。もちろん今も、このような典型的なパターンのデイサービスも多いが、介護保険制度施行後はより利用者のニーズに合った内容にしたいと取り組むデイサービスがとて増えてきた。

これは、介護保険制度が「民間活力の活用」を柱の一つに掲げた効果であり、デイサービスを株式会社やNPO法人などが開設できるようになったことが大きい。措置制度が廃止されたので、ビジネスチャンスと捉え参入する民間事業者が爆発的に増えてきた。しかし、社会福祉法人などが培ってきたそれまでの信用は大きいので、既存のデイサービスと同じことをしていても利用者は来ない。事業経営が成り立つには集客が必要で、今までのサービスとは一味違うサービス内容を提供しなければならない。利用者のニーズのすべてに応えるサービスはさすがに難しいから、あるニ

ズに特化したデイサービスの在り方というものを追求してきた結果、多様なデイサービスが生まれてきたのだろう。つまり、利用者からすると自分のニーズに合ったデイサービスを選ぶ時代になってきたといえる。

## サービス内容の細分化と進化

介護保険制度施行以前のデイサービスは、確かにワンパターンではあったが、ある程度利用者のニーズを万遍なく汲み取った内容でもあった。しかし、サービス内容が定型化しているがゆえに、利用者のそれぞれのニーズにこまやかに対応することは難しかった。それに応えるために、サービス内容は、細分化してきたともいえるし、進化してきたともいえる。

サービス内容の細分化というのは、例えば機能訓練だけ受けたいとか、入浴だけ支援してほしいとか、あるいは認知症が進んで家族からできるだけ長い時間預かっていただきたいとかのさまざまなニーズに、9時から16時の同じパターンではなかなか応えづらいというところに着目したものである。機能訓練特化型デイサービスや入浴特化型デイサービス（長時間居たくない男性に人気）、認知症対応デイサービス（介護保険の改正で制度化された）などが典型的であろう。

サービス内容の進化というのは、既存のデイでは満たされないニーズに着目して新たな形態のデイサービスを開発するというもので、家族が仕事から帰るまで預かってほしいとか、なじんだデイサービスで泊まりしてほしいとかの家族の要望に応えることや、自分ができる役割を発揮したいとか、自分が以前楽しんでしてきたことをまたやりたいとかの利用者本人の要望に応えるサービスを提供することなどがあげられる。家族の要望に応えるデイサービスとしては、一